工芸技術記録映画シリーズ　22

小鹿田（おんた）焼

文部省特選
教育映像祭優秀作品賞

◎**企画**　文化庁
◎**製作**　（株）桜映画社

カラー・34分

◎**販売価格**（消費税別）
16ミリ　240,000円
ＶＨＳ　55,000円

●**協　力**
日田市教育委員会
大分県立芸術会館
財団法人日本民芸館
小鹿田焼技術保存会
寺川泰郎

●**製作スタッフ**
製作　村山和雄
脚本・監督　村山正実
撮影　西山東男
照明　森　準蔵
編集　吉田栄子
ネガ編集　加納宗子
選曲　山崎　宏
（深草アキの「秦琴」「星の大地」より）
録音　堀内戦治
効果　柴崎憲治
現像　IMAGICA
ナレーター　相川　浩

◎重要無形文化財・集団指定の意味

映画評論家　**登川直樹**

小鹿田焼は、1995年5月、重要無形文化財に指定された。国の重要無形文化財というと、人間国宝とも呼ばれる立派な芸術家個人が受けることが多く、小鹿田焼のように、それをつくっている集落の人たちがまとまって対象になる集団指定はめずらしい。

それにしても、大分県は日田の山間の集落にどうしてこんなに見事な陶芸が受け継がれているのか。映画は、その焼きものづくりの工程を追いながら、伝統のなぞを解き明かそうとする。

近くに陶土の原料になるいい土があるが、それでも釉薬やさまざまな色を生みだす土をもとめて他県のあちこちから集めている。そして、機械化も電化もせず職人も雇わず、足でロクロをまわし、窯もふやさず、つまり大量生産とは全く縁のない素朴なつくり方を守り通している。映画を見ていると少しずつ、無形文化財の根拠がみえてくる。

遠く李朝期の朝鮮から伝えられたらしいわざを守り、技法をのばし、柳宗悦を喜ばせバーナード・リーチを狂喜させた理由が納得できる。雄弁な記録映画である。

季節、昼夜の別なく動き続ける唐臼

◆配給

◎小鹿田焼の主要な伝統的技法の特色

❶陶土は、小鹿田皿山で採取された原土を唐臼で粉砕し、手作業で水簸（すいひ）・乾燥させたものである。これは窯元の女性たちの仕事である。

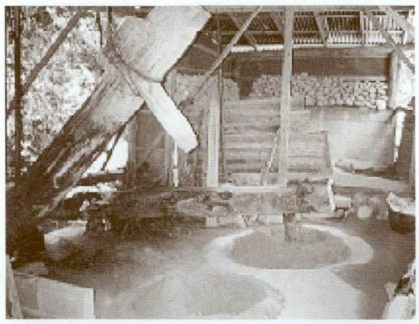
❷成形は、朝鮮系の蹴ロクロで、小物はひき造り・玉造りで作り、大物は底打ち・練付・腰継ぎの技法がある。ロクロのある車座は男の仕事である。

❸模様付けでは、伝承された刷毛目・飛び鉋（かんな）・櫛目・指描き・打掛け・流しぐすりなどの装飾の技法がある。中でも、刷毛目・櫛目は朝鮮李朝中期の技法であり、また飛び鉋は中国の宋時代の磁州窯にあった技法である。

❹釉薬は、フラシ釉（透明釉）・地釉（飴釉）・セイジ（緑釉）・薄セイジ・黒釉・ドーケとし、原料は、木灰・藁灰・長石・サビ石・銅とする。調製は伝承された方法により、施釉は、生掛けを基本にしている。

❺共同窯は八室からなる連房式登り窯で、窯焚き（焼成）は、火口焚き（前焚き・あぶり焚き）・露焚き・あんこ焚きと、伝承された登り窯の焚き方である。

❻その完成作品は、民芸陶器として重厚で、素朴で温かみがあり、土味を生かした伝統的な作調には小鹿田焼の特色がよく保持されている。



▲唐臼での粉砕

水簸の作業▼

▲刷毛目

飛び鉋▼

《小鹿田窯略年表》

1705年（宝永二年）頃	小石原の陶工が小鹿田に出向し皿山を開基する
1847年（弘化四年）	小鹿田皿山に共同登り窯を築く
1931年（昭和六年）	柳宗悦来窯
1942年（昭和十七年）	柳宗悦著『日田の皿山』出版される
1954年（昭和二十九年）	バーナード・リーチ来窯。三週間滞在し、飛び鉋の技法を研究する。 この時柳宗悦、浜田庄司、河井寛次郎も来窯する
1957年（昭和三十二年）	大分県の重要無形文化財に指定される
1970年（昭和四十五年）	文化庁より『記録作成等の措置を講ずべき無形文化財』に選択される
1979年（昭和五十四年）	展覧会出品は日本民芸館展と日本民芸公募展に限り他の展覧会には出品しない、出品は組合名とすることをきめる
1995年（平成七年）	国の重要無形文化財に指定され、小鹿田焼技術保存会がその保持団体の認定を受ける

（参考文献：寺川泰郎著『小鹿田焼の変遷』より）

やきもの
—その手わざと美を観る—

※表示価格は消費税別価格です

十三代今右衛門　薄墨の美

カラー・36分　〔英語版あり〕
販売価格　16ミリ　215,000円
　　VHS　25,000円（個人一般）
　　50,000円（ライブラリー）

色鍋島の伝統技法に基づきながら、新しい技法を用いた独自の色絵磁器をめざして創作へと努力する十三代の姿を描く。

藤本能道の色絵磁器—釉描加彩—

カラー・33分　〔英語版あり〕
販売価格　16ミリ　210,000円
　　VHS　25,000円（個人一般）
　　55,000円（ライブラリー）

釉彩に上絵を併用するという独自の技法「釉描加彩」を生みだした藤本能道の陶芸家としての生き様と、創作過程を紹介。

呉須三昧—近藤悠三の世界—

カラー・32分
販売価格　16ミリ　190,000円
　　VHS　25,000円（個人一般）
　　50,000円（ライブラリー）

独自の力強い染付を持ち味とし、染付一筋に仕事をしてきた陶芸家近藤悠三の技と、そのみがきぬかれた芸術論を伝える。

色　鍋　島

カラー・29分　〔英語版あり〕
販売価格　16ミリ　195,000円
　　VHS　50,000円

重要無形文化財の色鍋島は、多くの職人の共同作業によって作られる。その製作過程を追い手仕事の伝統技術を紹介する。

日本の美術工芸

カラー・28分　〔英語版あり〕
販売価格　16ミリ　175,000円
　　VHS　50,000円

色絵磁器の富本憲吉、民芸陶器の浜田庄司をはじめ、版画、友禅、蒔絵、竹工芸、日本画など、昭和30年代の日本の美術工芸の第一人者による作品と創作活動を記録した。

◆製作　株式会社 桜映画社
〒151 東京都渋谷区代々木1—57—1　代々木センタービル6階
TEL. 03—3320—6311　FAX. 03—3320—7666